

令和5年5月22日

保護者各位

学校法人法城学園
理事長 三芳弘道

令和4年度教職員自己評価ならびに 学校関係者評価についてのご報告

寒暖差が激しく体調管理に気をを使う日が続きます。

保護者の皆さまには常日頃より幼稚園教育にご理解ご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、表題の件につきまして当園では「学校関係者評価委員会」を設置し、真の子どもの幸せを願い地域に根差した幼稚園運営を目指して園内の制度整備に取り組んでいるところです。

毎年年度末に行っている「教職員自己評価」の結果内容を「学校関係者評価委員会」にお諮りし、ご意見をいただく中で、教育の質と運営面の向上に役立てていくという仕組みです。

ちなみに委員会を構成していただく方は、以前の卒園生で地域代表の方1名、学識経験者として子育て相談室の小峯節子先生、保護者会役員代表として会長、副会長の3名、そして園側から園長並びに主任教諭の7名で組織し、「学校関係者評価委員会設置規則」にしたがって開催されます。

本紙面では、教職員自己評価をまとめたものと先般開かれた学校関係者評価委員会での評価シートをご報告させていただきます。参考としてご覧いただき、当園の教育活動についてさらにご理解を深めていただき、ご意見ご質問等を賜れば有難いです。

▼ 教職員自己評価（令和4年度分）

【具体的な重点目標や計画】

- | |
|---|
| <p>①保育中の危機管理…園児の生命と健康を守るために、必要な知識を身につけ、実践訓練を行い、危機に備える日常の事故やケガについての記録を怠らない→初動の対応、事故対応の考察</p> <p>②職員間の連携・情報共有…教職員同士の話し合い→会議形式、隙間時間、パート職員、ライン、ウェブ等
保育の見せ合い→担任ローテーション、縦横、期間、講評</p> <p>③遊びの中での保育の工夫…「遊び」と「活動」を同場面として捉え、その中での「子ども自身の意思」を尊重する保育 → 教師の発問、環境、変化の記録</p> |
|---|

【評価項目の取組及び達成状況】

評価項目	結果 (※)	結果の理由
①保育中の 危機管理	B	<p>今年度は静岡で起こった園バス置き去り死亡事故をはじめ不適切な保育で保育士が逮捕されるなど大きな社会問題として幼児保育施設が注目されてしまいました。しかもその教訓が生かされずにその後も続いて同じようなことが起き、施設に対する信頼感の低下にもつながってしまいました。マニュアル、設備等のハード面の整備はもちろん大切なことですが、「たぶん大丈夫、前からやっていることだから大丈夫…」といった思い込みや過信、慢心が招く人為的な事故であることは確かです。</p> <p>当園でも大事には至りませんでした。今年度3件のヒヤリ・ハット報告が上がりました。いずれも悪い条件が重なった時に起きています。以前に比べれば行事などの業務はスリム化し、全体量とすれば目減りしていますが反面、配慮しなければならないことや事務内容の煩雑化がかなりの負担になっているのも否めません。やはり重要なことは一人ひとりが危機管理のための意識を高めることに尽きます。今年度も限られた時間の中で最低限知っておいて欲しいことは実技や動画、月例会の中で研修してきました。しかしながら危機管理の知識を更に深めていくには全く時間が足りません。研修時間を増やして必要な知識を学ぶよりはむしろ各保育者の意識を高めてお互いのチェック機能体制を築くことで「危機を引き起こしそうな小さな芽」を早期に発見させることにつなげていくことも結果として危機の未然防止につながるものと考えます。自己評価上では肯定的に捉えられていても「意識」として具体的に発揮できているかと言えば課題も多い状況です。危機管理については地道に研修を重ねて知識を習得し、日頃からいろいろなことを意識しながら保育に当たることが重要です。</p> <p>主な研修内容</p> <p>4月 AEDの使い方と心臓マッサージの仕方（実技）、危機管理マニュアル説明</p> <p>5月 「幼稚園等のプール活動、水遊びでの溺れ事故を防ぐために」（動画視聴） 監視を優先</p> <p>6月 「食物アレルギーと発達障害の集団保育におけるプライマリケア」（動画視聴）</p> <p>1月 幼稚園「危機管理マニュアル」改訂</p>
		<p>学年によっては話し合いの時間を多く設け新しいことにチャレンジしたり、担任交代して保育の意見交換や自らの保育の見直しにつなげていったという好事例がありました。自分の保育がどうなのか、他クラスの子どもを保育することで気づく面もありますからその後の意見交換や情報共有で得たことをどう活かしていくかが本人の伸びしろとなっていきます。一方、今年度は途中から管理職が人事穴埋めのため現場に入ることになってしまい当事者の負担増はもとより正規職員と非正規職員の連携や情報共有といった面でもやり</p>

<p>②職員間の 連携・情報共有</p>	<p>C</p>	<p>繰りの厳しい年になってしまいました。さらにはそういったことが原因となり、仕事の効率化をしているにもかかわらず勤務時間が長くなっている点も次年度へ向けて大きな課題となりました。</p> <p>情報共有の面からすると、非正規職員が時間的に職員会議や月例会に参加する機会がほとんどなく通常の連絡事項が伝わってなかったり、危機管理などの重要事項の周知についても不十分だったりということが挙げられます。勤務時間はどうであれ園の職員としての共通認識や理解を持ってもらうことはとても重要なことなので、そのためには皆一緒に話し合いながら共有する場が必要です。例えば保護者にご理解いただき月1回13時降園にするなどでそのような日を設定し、非正規職員が出席し易くするように対応できるかもしれませんので、来年度へ向けて具体的に考えていきます。</p>
<p>③遊びの中での 保育の工夫</p>	<p>B</p>	<p>今年度は「みんなの日」という一日自由保育日を月いちペースで設け、主体性を育むことを大きなねらいとして取り組んできました。当初、子ども達は何をしてよいのか戸惑ったり、保育者もねらい通りにはいかない難しさを感じながら環境設定を模索していましたが、今ではほとんどの子どもがこの日を楽しみにして見通しを持ちながら遊ぶようになってきました。まだまだ多くの課題や改善の余地があり、保育者にとってはこれからが本当の意味でねらい達成のための考えどころになってくると思います。つまり「子どもの主体性が育つための保育者の観察と関わり方」がキーワードとなります。保育者自身が日常の園生活の中でどれくらい子どもの意思を尊重しながら進められているのか、時々発問や自分の働きかけがどれだけ子どもの意欲を引き出し育ちに関わっているかをよく考えぬいて保育に当たる必要があります。</p> <p>そのためには自らの感性を磨く体験をしたり、担任交代などを通していつもと違う環境下の保育実践とその考察、必要な研修を受講して視野を広め保育能力を向上させていく学びが大切であることは言うまでもありません。やはり保育のプロとしてそれなりのトレーニングを積まなかったら目の前のハードルは越せないのです。もう何年も同じ課題が自己評価の中で停滞しているのはそういった問題意識を持ってこなかったからかもしれません。自分の課題点を克服するために自ら必要な研修を探し出し、理解を深めていこうという保育者の主体性が子どもの主体性を育むことにつながっていくのでしょうから引き続き個々の保育能力向上のための具体的な取り組みを切に望みます。</p>

【具体的な目標や計画の総合的な評価結果】

結果	理由
	<p>令和4年度はいろいろな意味で保育業界が社会から注目された年となり、お子さんを預かる責任の重さを再確認するとともに園は、子ども達の「からだの安全」と「こころの安全」が常に守られる場所でなければならないことを肝に銘じた次第です。よく「子ども主体の保育は危険な保育ですよ。子どもの好きにさせるのですから危ないですよ。」と誤</p>

B	<p>解されることがあります。保育者自身も子ども主体の保育という言葉にとらわれて「何も手出ししてはいけない」と思っている者もおります。子ども主体の自由な保育というのは先生が何もしないで見守るだけの保育ではありません。子どもが何かをやりたいかという気持ちに寄り添う保育で、その環境を子どもと共に作り出していくのが本来の中身です。保育者の力によって、子ども自身が自分で考え、判断できるようにしていく保育ですからむしろ安全であるはずですが、たまたまですが4年度の当方の課題（危機管理、職員間の連携、保育の工夫）が、まさに今の保育業界全体に問われていることと重なりました。中身の徹底までにはまだまだ時間を要するところがありますが、地道にその成果が積み上がってきていると思います。子どもの喧嘩や保護者とのやり取り、職場の人間関係など難しい局面が日常茶飯事の中、こころ穏やかに子ども達に笑顔で接し寄り添う姿を垣間見られたときはその成果を特に感じます。一方で、園としても一人ひとりの子どもが自分の気持ちを保育者に安心して表現できるように「こころの安全」を担保する園内環境を目指していかなくてはなりません。その最も基本となるのが保育者職員間の風通しの良い人間関係の構築、そして正規非正規、世代間を越えた相互の尊重意識ですので、引続き全体に配慮しながら安定した気持ちで保育が提供できるように努めてまいります。</p>
---	---

結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

▼今後取り組むべき課題（令和5年度分）

課 題	具体的な取り組み方法
①保育の 計画性	<p>保育者はあらかじめ子どもの発達に必要な経験を見通し、発達の特性を踏まえながら教育課程に基づいて立案</p> <ul style="list-style-type: none"> → 発達の見通しや活動の予想に基づいて環境を構成する → クラス毎、学年毎により一人ひとりの発達を見通して援助
②主体性を 育む保育	<p>子どもの自発的な活動としての遊びや主体的な生活態度を生み出すために必要な教育環境はどんなものか？…活動の場面に応じて保育者の役割を具体的に考察し、遊びが展開・発展したり子どもの意見や提案が取り上げられて周囲に役立つ環境の創造につなげていけるように保育者同士で共有していく</p>
③保育の 理解を深める	<p>子ども一人ひとりが伸びようとする芽をもっているため、その芽を見落とさず的確に捉えるためには幼児を理解することが必要（3点）</p> <ul style="list-style-type: none"> → 子どもの姿の観察・共鳴共感を通して成長を記録 → 一般論としての「子ども理解」「発達の特性」 → 園の理念を理解、精通し保育の専門性を高める

学校関係者評価シート

みよしの幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和5年5月15日(月) 10:30~12:30

出席者 出席評価委員 7名 / 現在定数 7名

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

→重点目標として

①災害、事故に対する危機管理

②教職員間の連携

③遊びを通しての保育

を挙げ、それぞれ実践訓練、担当ローテーション、保育記録など具体的な取り組みを提示するなど、適切な設定であった。

2. 評価結果の内容は適切であったか

→重点目標①については、時間的な問題もあるが危機意識向上を図るなど、達成されている。

②については、正規、非正規職員間の連携、非正規職員の時間的制限などもあり、成果は十分ではない。

③については、園児の意思を育む点で課題は残るが、達成された。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

→4年度の学校評価、教職員自己評価を反省に

①保育の計画性

②主体性を育む保育

③保育の理解を深める

を今後の取り組み課題としており適切に設定されている。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

→5年度の3課題について、年度当初であるが、現時点まで具体的な取り組みが進められている。

自己評価 A～D のいずれかに○をつけて下さい

A…十分に達成されている

B…ほぼ達成されている

C…重要な点で成果が上がっていない

D…全体として成果が上がっていない

※教諭以外はその立場上の業務運営について、大意を解釈しながら評価のこと。

[評価項目]

数字：%

1. 教育理念	A	B	C	D
・園の教育方針を理解している	65	35	0	0
・幼稚園教育要領の特性を理解している	43	52	5	0

2. 保育の計画性	A	B	C	D
・園の教育方針を理解し、教育課程に基づき、指導計画・月案・週案を計画し、保育を展開している	40	50	10	0
・指導計画は、常に見直しを行ない、子どもの発達・クラスの幼児の実態などをもとに考え作成している	40	50	10	0
・指導計画は、子どもの主体性を尊重し作成されている	20	60	20	0
・自分なりに標記の仕方を工夫し課題をもった内容になるように努力している	20	65	15	0

3. 保育の実践	A	B	C	D
・5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を踏まえて保育を実践している	10	76	14	0
・一人ひとりの子どもをよく観察している	55	32	14	0
・子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めようとしている	45	50	5	0
・子ども自身に考えさせたり意思を尊重するために適切な発問や環境設定がなされている	14	64	23	0
・子ども同士のトラブルに対し、適切な対応をしている	23	59	18	0
・子どもの人権を無視したり、体罰を加えるようなことはどんな場合でもしていない	82	18	0	0
・子どもを自分の一方的な感じ方や捉え方で決めつけないようにしている	55	45	0	0
・子どもの姿を多面的に捉えることができる	14	62	24	0
・子どもについて常に教師同士で話し合い、クラス、学年を超えて情報交換する機会がある	19	52	29	0
・互いに保育を見せ合って検討し、評価反省を加え保育向上につなげている	5	32	53	11
・独断で行動せず、事前相談、事後報告をしている	55	36	9	0
・クラスの運営や子どもの生活または育ちを適切に記録している	10	52	38	0
・コロナ禍を契機に新たな保育内容にチャレンジ、模索している	19	48	33	0
・トイレでの清掃や衛生について配慮し、子どもにも正しい使い方を具体的に示している (和式トイレ、紙の使い方などを含む)	43	48	10	0
・危険が予測される場合には、子ども達と一緒に見たり考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている	41	50	9	0
・失敗や反省を踏まえ、次の日の保育に生かす工夫をしている	36	64	0	0

4. 学級経営	A	B	C	D
・保育室内の整理整頓を心がけ、清潔に管理されている	32	50	18	0
・子どもの動線を考え、安全に配慮した環境になっている	36	45	18	0
・出席簿、週日案等は毎日正確に記入している	40	40	20	0
・配布物、手紙等はすぐに目を通し適切に対応している	55	32	14	0
・保護者からの提出物、現金など注意深く管理している	68	32	0	0
・保育室内の換気、室温、湿度などに気をつけている	50	50	0	0

5. 保育能力向上	A	B	C	D
・自分の保育の課題点を理解している	19	71	10	0
・自分の課題改善策に何が必要かを理解し、目標化している	9	77	14	0
・自分の課題点を克服するため、園内研修等に積極的に取り組む	10	43	48	0

6. 保護者とのかかわり	A	B	C	D
・子どもの変化や出来事、日常の様子をできる限り保護者に伝えている	43	48	10	0
・保護者からの依頼や質問、相談などには適切に対応している	55	36	9	0
・家庭との連携が不可欠であることを認識し、保護者との情報交換に努めている	52	43	5	0
・保護者からの意見、要望については安易に受けたり、断ったりせず、上司に報告・相談をしている	68	32	0	0
・個々の子どもや保護者、家族の情報は口外していない	82	18	0	0
・保護者との接し方は平等になるよう心掛けている	68	32	0	0
・保護者に対して節度をもって丁寧な言葉で話している	68	27	5	0
・園に関することについてみだりに、または不確かな理解のままに保護者へ話したりしていない	86	14	0	0
・すべての保護者に対し、挨拶や礼節を心掛けている	78	22	0	0
・クレームに対して誠意をもって迅速に対応している	59	41	0	0
・必ず上司に相談・報告している	82	18	0	0

7. 安全・衛生管理	A	B	C	D
・園内に危険な物、壊れた物はないか常に観察し、発見次第報告している	50	50	0	0
・園内での火災、災害、事故、事件などの危機に関して、その対応を理解している	32	68	0	0
・消火器、非常ブザー、救命機器などの位置を把握し、使い方を理解している	36	59	5	0
・飲食物、アレルギー食の保管や配膳には十分配慮している	59	36	5	0
・救急薬品、清掃用薬品の保管、取り扱いには十分配慮している	64	36	0	0
・事故やケガがあった時は迅速かつ適切に責任をもって対応している	64	36	0	0
・事故やケガの状況や原因を把握し、上司、保護者に報告している	77	23	0	0
・事故やケガについては記録している	38	52	10	0
・常に人員確認には気をつけている	65	30	4	0
・相応の危機管理意識を持っていると思う	48	48	4	0

8. 子育て支援	A	B	C	D
・子育てに悩んでいる保護者の心情を理解し、寄り添うことができる	14	73	14	0

9. 期待される望ましい保育者像	A	B	C	D
・クラスの関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている	55	32	14	0
・幼稚園教諭として専門知識や技能を身につけようと努めている	29	67	5	0
・子どもの性格や個性を把握するよう努め、保護者とコミュニケーションがとれる	32	55	14	0
・仕事の手順を考え、優先順位を見極め能率よく行っている	18	68	14	0
・何かしてもらったら感謝の気持ちを言葉などで表している	74	26	0	0
・クラス全体の動きを常に把握している	29	67	5	0
・保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心掛けている	45	45	9	0
・その場に適した言動をとることができる	23	68	9	0
・服装、髪型、身だしなみなど、清潔感あるものを心掛けている	48	43	9	0
・園の消耗品や教材は大切に使い、後で使う人が使い易いようにしている	55	41	5	0
・職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密は厳守している	77	23	0	0
・重要書類や個人情報にかかわる資料等は確実に保管している	67	33	0	0
・教材、教具の管理、点検に気を配っている	23	68	9	0
・ミスした内容については必ず上司に報告している	82	18	0	0
・提出物は期限内に提出している	68	27	5	0
・出勤時刻を厳守している	70	30	0	0
・教職員全員でひとつのチームであることを意識している	70	26	4	0
・他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	23	77	0	0
・クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換している	41	50	9	0
・当番や担当などの仕事の分担は責任をもって実行している	55	45	0	0
・教職員のプライバシーや園に関することをみだりに他へ話していない	83	17	0	0